

大雨から命を守るための 避難行動

災害の大きさや種類に応じて、町内の公共施設を避難所として開設します。避難所の開設状況については、2ページの方法で情報を入力してください。避難所の位置や開設基準については、町ホームページや暮らしの便利帳などで確認できます。

災害時の避難では、避難所へ移動(水平避難)することが一般的に考えられがちです。しかし、大型台風や集中豪雨時では、道路が冠水した中での屋外への移動はかえって危険な場合もあります。自宅内の高い所に移動(垂直避難)した方が安全な場合があります。

警戒レベルを参考に、自宅に残るべきか、避難所に避難すべきかを早めに判断することが重要です。

● 家庭の避難タイムライン

1 正確な情報収集
雨の降り方や浸水状況の情報を収集し、避難方法を判断します。

2 避難に適した服装の用意
動きやすい服装、靴を準備します。

3 電気、ガス栓の確認
移動を始める前に、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を締めめます。

4 避難先・経路を選定
避難先に至る経路を安全確認し、選定します。

5 非常持出袋(リュック)の準備
避難時に必要最低限の物品を持って避難します。

● 避難の心がまえ

1 2人以上で避難

2人以上の複数で避難し、避難所等をご近所や親戚に知らせておきます。

2 要配慮者などの避難に協力

お年寄りや子供、病気の方など、避難に時間を要する方は、早めに避難を開始することが必要です。家族やご近所に要配慮者がいる場合には、協力して避難行動を取ってください。

3 車での避難は避ける

車での避難は、交通渋滞を招き、緊急車両の通行の妨げとなります。特別な場合を除き徒歩で避難します。

4 逃げ遅れた時は

万が一、避難が遅れ危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げてください。

5 事前に家族で話し合う

避難所での落ち合う地点や連絡手段などを平時から話し合っておきましょう。

警戒レベルを用いた避難指示等の発令



避難情報発令時にとるべき避難行動

緊急安全確保	命を守るための最善の行動を取ってください。
避難指示	速やかに避難先へ避難してください。
高齢者等避難	避難に時間を要する人(ご高齢者、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難してください。その他の人は避難の準備を整えてください。

発令の流れ

気象庁(気象台)からの「洪水警報」等の警戒レベル相当情報が出されます。その情報を受け、今後の気象状況などを踏まえて総合的に判断し、町(災害対策本部)から避難情報を発令します。避難情報は必ずしも警戒レベル1~5の順番で発令されるとは限りません。その後の気象状況などの判断により発令しない場合もあります。

積極的に情報を入力し、警戒レベルに応じて、速やかに避難行動を取ってください。